

V 再造林の推進に向けたコンテナ苗の通年植栽試験

(実施期間：令和3年度～6年度 予算区分：県単 担当：赤井広野)

1 目的

近年、再造林の省力化・低コスト化の推進のための切り札として注目されているコンテナ苗は、根と土が一体となった根鉢付きであるため、裸苗と比較して植栽後の乾燥に強いとされており、この特性を活かし、伐採、搬出、植栽までを連続して行う一貫作業システムに活用され、通年植栽の可能性が期待されている。

しかし、本県の気象条件での通年植栽の可能性は不明であるため、コンテナ苗の植栽時期の限界を明らかにする。

2 実施概要

(1) 方法

鳥取市河原町内において、令和4年4月から11月までの毎月、スギ2年生コンテナ苗（根鉢容積150cc。以下、「コンテナ苗」。）及びスギ2年生裸苗（以下、「裸苗」）を各20本植栽し、活着状況及び樹高等を調査した。なお、令和4年3月時点の平均苗高は、コンテナ苗が28.4cm、裸苗が30.1cmであった。

(2) 結果

11月時点の活着状況は、4月から8月に植栽した個体において、半枯れ又は枯死した個体が発生し、9月及び10月に植栽した個体には、半枯れ又は枯死した個体は見られなかった（図1）。また、植栽不適期と考えられる7月及び8月に植栽した個体において、コンテナ苗より裸苗の方が半枯れ又は枯死した個体が多かった。

11月時点の平均樹高成長量は、7月及び8月以外に植栽した個体において、コンテナ苗より裸苗の方が大きかった（図2）。

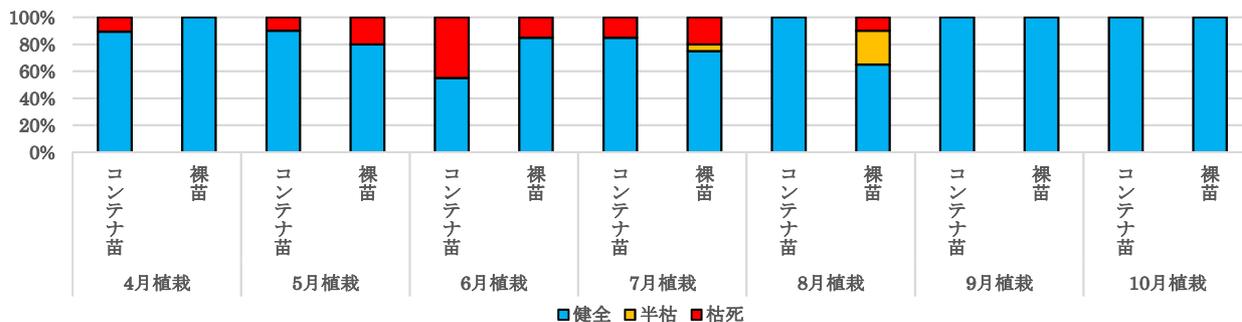


図1 11月時点の活着状況

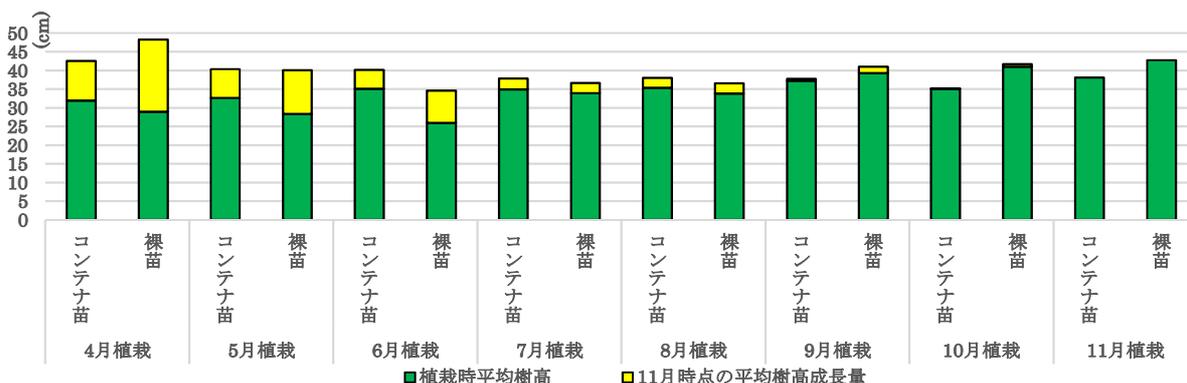


図2 植栽時平均樹高と11月時点の平均樹高成長量